

平成27年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ネクシーズ
 コード番号 4346 URL <http://www.nexyz.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 近藤 太香巳
 (氏名) 松井 康弘

TEL 03-5459-7444

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年9月期第1四半期の連結業績(平成26年10月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年9月期第1四半期	2,108	18.9	101	—	106	—	52	—
26年9月期第1四半期	1,773	4.6	△64	—	△56	—	△91	—

(注) 包括利益 27年9月期第1四半期 73百万円 (—%) 26年9月期第1四半期 △102百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年9月期第1四半期	4.10	3.93
26年9月期第1四半期	△7.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年9月期第1四半期	8,968	6,978	42.8
26年9月期	9,450	6,968	40.8

(参考) 自己資本 27年9月期第1四半期 3,841百万円 26年9月期 3,852百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
27年9月期	—	—	—	—	—
27年9月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

第2四半期末の配当予想の修正につきましては、本日(平成27年2月9日)公表いたしました「配当予想の修正(記念配当)」に関するお知らせをご覧ください。

3. 平成27年9月期の連結業績予想(平成26年10月1日～平成27年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	8,500	2.7	800	42.9	800	54.5	400	52.9	31.49
	～10,000	～20.8	～1,000	～78.6	～1,000	～93.1	～500	～91.1	～39.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年9月期1Q	13,413,640 株	26年9月期	13,413,640 株
② 期末自己株式数	27年9月期1Q	670,610 株	26年9月期	673,330 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年9月期1Q	12,740,974 株	26年9月期1Q	12,675,467 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、消費税率引き上げの影響が和らぎ、個人消費につきましては持ち直しの動きがみられました。一方で、原油価格急落やギリシャの政治的混乱等も重なり、資源国経済や金融市場で不透明感が増すなど、景気の先行きには注視が必要な状況が続いております。GDPの伸び率は、平成26年7月～9月に0.5%減となりました。消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、原油価格の下落の影響もあり、前年同月比2.7%～2.9%の間で推移し、上昇幅が縮小しております。

このような状況の下、当社グループの経営体制の更なる強化を図るため、各社の権限と責任を明確化させ、各事業の独立性を高めることで、全体の最適化に努めております。また、経営資源をより収益性の高い事業へと重点的に配分させ、グループ収益の最大化を図っております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、ライフアメニティ事業において前連結会計年度に引き続き、LED照明レンタルサービスの導入店舗・施設数が増加し、販売手数料収入が好調に推移いたしました。その他の業務につきましても概ね堅調に推移しております。ソリューションサービス事業においては、金融商品仲介業務や、電子雑誌業務が概ね堅調に推移いたしました。業務受託テレマーケティングにおいても幅広い業種業態のクライアント企業から継続的に案件を受注することで安定した業務受託収入が得られております。その他の業務につきましても概ね好調に推移しております。文化教育事業においては、創立45年目特別企画「着付け世界一」ギネス世界記録TMに挑戦するイベントを開催し、催事収入が増加いたしました。

これらの結果、売上高2,108百万円(前年同四半期比18.9%増)、営業利益101百万円(前年同四半期営業損失64百万円)、経常利益106百万円(前年同四半期経常損失56百万円)となり、四半期純利益は52百万円(前年同四半期純損失91百万円)となりました。

当第1四半期連結累計期間における報告セグメントの概況は次のとおりであります。

[ライフアメニティ事業]

ライフアメニティ事業では、LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務及びインターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供並びに、DNA解析に基づく健康コンサルティング業務等を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、LED照明レンタルサービスの需要増加に対応するため、人員を増員すると同時に、営業対象地域を拡大させております。導入店舗の増大に伴い徐々にサービスの認知度が高まり、新規契約だけでなく紹介による契約も増加しております。これにより引き続きサービスの導入店舗・施設数が好調に推移し、販売手数料収入が増加しております。

DNA検査に基づく健康コンサルティング業務では、DNA検査プログラム「DNA美容」の導入店舗の開拓や商材説明会を開催し、DNA検査の新規申込件数の増加を図っております。

これらの結果、ライフアメニティ事業は、売上高885百万円（前年同四半期比23.5%増）、セグメント利益6百万円（前年同四半期セグメント損失53百万円）となりました。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、企業や店舗等の個人事業者向けに様々な製品・サービスの販売促進支援業務を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、前連結会計年度より引き続き国内の活況な株式市場を受け個人投資家の口座開設数が増加するなど、金融商品仲介業務が概ね堅調に推移いたしました。

また、電子雑誌業務では、一般社団法人金沢観光協会と金沢市とのタイアップ企画として「旅色～金沢～」を公開するなど、更なる業容拡大に向けて取り組んでおります。広告掲載数につきましても新規契約と既存顧客の契約更新により増加傾向にあります。

業務受託テレマーケティングにつきましては、引き続き安定した業務受託収入が得られました。

これらの結果、ソリューションサービス事業は、売上高615百万円（前年同四半期比19.2%増）、セグメント利益106百万円（前年同四半期比38.3%増）となりました。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付け教室等の運営や、呉服・和装小物等の販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、催事として平成26年11月に東京ビックサイトにて「着付け世界一」に挑戦し、ギネス世界記録TMの公式認定を頂きました。また成人式の前撮り撮影が好調で想定を上回って推移いたしました。そのほか、毎月の授業料収入、呉服販売については概ね堅調に推移いたしました。

これらの結果、文化教育事業は売上高624百万円（前年同四半期比2.2%増）、セグメント利益16百万円（前年同四半期比415.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は8,968百万円となり、前連結会計年度末に比べて482百万円の減少となりました。

① 資産の状況

(流動資産)

流動資産は5,947百万円となり、前連結会計年度末に比べて488百万円の減少となりました。これは主に、商品が176百万円、前払費用35百万円、未収入法人税等が2百万円それぞれ増加した一方で、売掛金353百万円、現金及び預金が342百万円、未収入金が8百万円がそれぞれ減少したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は3,020百万円となり、前連結会計年度末に比べて著しい増減はありません。

② 負債の状況

(流動負債)

流動負債は1,939百万円となり、前連結会計年度末に比べて491百万円の減少となりました。これは主に、買掛金が282百万円、短期借入金が200百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債は50百万円となり、前連結会計年度末に比べて著しい増減はありません。

③ 純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は6,978百万円となり、前連結会計年度末に比べて9百万円の増加となりました。主な内訳は、配当金の支払等により、利益剰余金が12百万円減少した一方で、少数株主持分が21百万円増加したことによるものであります。

以上により流動比率は306.7%となり前連結会計年度末比41.9ポイント増加いたしました。株主資本比率は42.8%となり前連結会計年度末比2.0ポイント増加いたしました。一方で、時価ベースの株主資本比率は86.8%となり前連結会計年度末比3.1ポイント減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年9月期の業績予想につきましては、平成26年11月13日に公表いたしました「平成26年9月期決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載のとおりであり、業績予想は修正しておりません。なお、今後の各事業の取り組み、業績予想については、以下のとおりであります。

[ライフアメニティ事業]

ライフアメニティ事業では、LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務及びインターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供並びに、DNA解析に基づく健康コンサルティング業務等を行っております。

LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務においては、飲食店や美容室等の店舗や旅館・ホテルなどの施設の需要が多く、案件が増加傾向にあります。そのため、引き続き対象地域を広げて人員を増員していくことで、業容を拡大させてまいります。

インターネット接続サービス「Nexyz.BB」においては、人員を成長が見込まれるLED照明レンタルサービスへ段階的に異動させているため、人員が少ない状況で営業を展開しておりますが、4月には新入社員が入社することで、販売手数料収入の増加を見込んでおります。

DNA解析に基づく健康コンサルティング業務につきましては、引き続きエステサロンを中心にDNA解析キットの取扱店を増やしてまいります。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、法人や個人事業主を対象に様々な製品・サービスの販売促進支援業務を行っております。テレマーケティングを活用した販売促進支援業務や、金融商品仲介業務、企業から委託を受けて発行する電子雑誌制作業務並びに新規広告クライアントの獲得業務を行っております。

金融商品仲介業務では、収益基盤である証券売買手数料収入の強化を目的として口座開設促進を強化しております。その他の販売促進支援業務につきましても、既存案件の継続や新規受注により、安定した収益が見込まれます。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付け教室等の運営や、呉服・和装小物等の販売を行っております。

同事業では今後、きもの着付け教室等の日本の伝統文化に関する習い事への認知度や関心を高めるため、様々なイベントを企画してまいります。また、若い世代への訴求も強めていくことで、生徒数の維持・増大を図ってまいります。一方で、経費削減や業務の効率化などの見直しも随時行ってまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の連結子会社は、当第1四半期連結会計期間より連結納税制度を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,724,362	2,382,074
売掛金	2,596,435	2,243,159
商品	101,950	278,224
未収入金	393,559	385,123
繰延税金資産	442,534	444,385
その他	253,552	302,904
貸倒引当金	△76,013	△88,437
流動資産合計	6,436,382	5,947,435
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	185,382	163,622
その他(純額)	143,544	147,326
有形固定資産合計	328,927	310,948
無形固定資産		
のれん	178,523	174,230
その他	148,139	142,267
無形固定資産合計	326,663	316,498
投資その他の資産		
投資有価証券	1,531,194	1,452,831
敷金及び保証金	445,004	455,279
その他	467,029	570,185
貸倒引当金	△84,428	△84,854
投資その他の資産合計	2,358,800	2,393,441
固定資産合計	3,014,391	3,020,887
資産合計	9,450,773	8,968,322

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	657,050	374,186
短期借入金	800,000	600,000
未払金	469,162	527,298
解約調整引当金	115,040	119,666
その他	389,218	317,880
流動負債合計	2,430,471	1,939,031
固定負債		
その他	51,779	50,812
固定負債合計	51,779	50,812
負債合計	2,482,250	1,989,844
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,189,156	1,189,156
資本剰余金	1,134,423	1,134,423
利益剰余金	1,847,715	1,835,418
自己株式	△312,545	△311,425
株主資本合計	3,858,751	3,847,574
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,777	△5,777
その他の包括利益累計額合計	△5,777	△5,777
新株予約権	2,201	2,196
少数株主持分	3,113,347	3,134,485
純資産合計	6,968,522	6,978,478
負債純資産合計	9,450,773	8,968,322

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)
売上高	1,773,844	2,108,718
売上原価	1,110,260	1,199,993
売上総利益	663,584	908,724
販売費及び一般管理費	727,765	807,286
営業利益又は営業損失(△)	△64,181	101,437
営業外収益		
受取手数料	2,788	407
償却債権取立益	-	1,533
持分法による投資利益	2,951	3,262
その他	2,398	881
営業外収益合計	8,139	6,085
営業外費用		
支払利息	447	653
店舗閉鎖損失	-	413
その他	23	12
営業外費用合計	470	1,079
経常利益又は経常損失(△)	△56,512	106,443
特別損失		
固定資産除却損	18	1,785
事業所移転費用	10,271	-
減損損失	16,106	-
特別損失合計	26,396	1,785
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△82,909	104,658
法人税、住民税及び事業税	11,016	32,657
法人税等調整額	14,348	△1,415
法人税等合計	25,365	31,241
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	△108,274	73,417
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△17,263	21,137
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△91,011	52,279

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	△108,274	73,417
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,054	-
その他の包括利益合計	6,054	-
四半期包括利益	△102,219	73,417
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△84,956	52,279
少数株主に係る四半期包括利益	△17,263	21,137

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ライフ アメニティ 事業	ソリューション サービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	700,453	462,976	610,414	1,773,844	—	1,773,844
セグメント間の 内部売上高又は振替高	16,518	53,390	20	69,929	△69,929	—
計	716,971	516,367	610,434	1,843,773	△69,929	1,773,844
セグメント利益又は損失	△53,117	76,931	3,115	26,930	△91,111	△64,181

(注) 1. セグメント利益の調整額△91,111千円には、セグメント間取引消去144千円、各報告セグメントに配分していない全社収益64,430千円、全社費用△155,686千円が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、LED照明レンタルサービスの利用者獲得業務の業容拡大等に伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「ブロードバンド事業」「ソリューションサービス事業」「文化教育事業」から、「ライフアメニティ事業」「ソリューションサービス事業」「文化教育事業」に変更しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ソリューションサービス事業」において、廃棄処分の決定した事業用資産の帳簿価額を回収可能価額まで減損いたしました。当該減損損失の計上額は16,106千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「ソリューションサービス事業」において、連結子会社株式の追加取得により、のれんが増加しております。当該のれんの増加額は、当第1四半期連結会計期間においては78,463千円であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ライフ アメニティ 事業	ソリューション サービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	884,960	599,835	623,921	2,108,718	—	2,108,718
セグメント間の 内部売上高又は振替高	666	15,477	173	16,318	△16,318	—
計	885,627	615,313	624,095	2,125,036	△16,318	2,108,718
セグメント利益	6,972	106,391	16,075	129,439	△28,001	101,437

(注) 1. セグメント利益の調整額△28,001千円には、セグメント間取引消去151千円、各報告セグメントに配分していない全社収益134,208千円、全社費用△162,361千円が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結会計期間より、当社連結子会社に係る新たなのれん償却額が発生したことを機に、セグメント利益又は損失の測定方法の見直しを行いました。その結果、各報告セグメント別損益の実態をより正確に把握することを目的として、従来は調整額に含めておりましたのれん償却額を、セグメント利益又は損失に含めて記載しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の測定方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。